

## 倭寇と松浦の地④（1/2）

～倭寇の頃の文化財～

倭寇の頃、つまり、平安、鎌倉、室町の各時代に、日朝間や日中間での様々な形での交流によって、実に、さまざまな物品や文化財が、日本にもたらされた。それは、公式な日朝貿易や日明貿易によるもの、倭寇の略奪によるもの、密貿易によるもの、私的な交流によるもの等がある。ここでは、そのルートは定かでないが、今も、唐津・東松浦地方に残っている朝鮮渡来の文化財（仏像・朝鮮鐘・仏画）について述べよう。

### ■恵日寺の朝鮮鐘

唐津市鏡の恵日寺に朝鮮鐘がある。昭和25年、国の重要文化財に指定された。総高73cm、い坐する飛天の菩薩像が一体ずつ陽鑄されて、高麗鐘の特徴をよく具現し、工芸美術の上からも高い水準である。この姉妹鐘が、唐津市半田の勝楽寺（現、常楽寺）にあって、この鐘の追刻銘より、施入の趣旨が推定できた。この鐘は、現在、ドイツのベルリン博物館にある。

### ■唐津市山田の銅造如来坐像

この如来坐像は、仏高64cm、円形の頭部、円形に近い面相、肥満した体格、類型化した衣紋等から、高麗後期（1350年ころ）のものと推定される。昭和59年、県文化財に登録された。この山田地区は、南北朝時代、松浦党石志氏の一族である山田氏の所領であり、この像もそのゆかりによって施入されたと考えられる。

### ■長得寺の銅造観音菩薩坐像

唐津市西寺町の長得寺の本尊で、像高75.5cmで、右手を胸の前にあげ、左手は水平にして膝の上にさしのべ、指は阿弥陀仏の九品印のように結び、右足を上にして組む吉祥座で結跏趺坐する菩薩形坐像である。

～2/2へつづく～

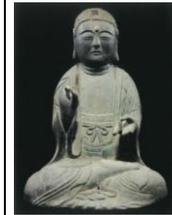
分野 歴史

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など



恵日寺の朝鮮鐘



唐津市山田の  
銅造如来坐像



長得寺の銅造観音  
菩薩坐像

（『唐津市の文化財』より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『鎮西町史（上）』 P443
- ◆『唐津市の文化財』  
唐津市教育委員会

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsucity.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 倭寇と松浦の地④（2/2）

～倭寇の頃の文化財～

～1/2からつづく～

### ■鏡神社の絹本着色楊柳観音像

この画副が鏡神社にあることは、『松浦記集成』や『鏡宮縁起』に書かれており、江戸末期までは、大祭ごとに特別の小屋を作って開帳されていた。ところが、明治初年の廃仏毀釈によって、近年まで忘れ去られていた。それを、昭和43年、平田寛氏によって再発見された。本画幅は、絹本着色、縦410cm、横222.5cmの大きな掛け軸である。現在は、国指定の重要文化財として、県立博物館にある。この仏画は、高麗仏画であるが、どのような事情で制作され、鏡神社に施入されたかについては、わからなかった。

ところが、伊能忠敬が1812年9月、松浦沿岸を測量した際、鏡神社を訪れ、その『測量日記』に寄進銘を書き留めていたことから、その事情が明らかとなっている。

### ■その他の仏教美術品

- ・「銅造如来立像」・・・玄海町 値賀神社
- ・「銅造如来立像」・・・唐津市 浄泰寺
- ・「銅造如来坐像」・・・唐津市 大聖寺
- ・「銅造如来坐像」・・・唐津市 願正寺
- ・「銅造菩薩坐像」・・・唐津市 梶山観音堂

分野 歴史

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など



鏡神社の絹本着色楊柳観音像

（『唐津市の文化財』より）

◎引用・参考文献（出典）

- ◆『鎮西町史（上）』
- ◆『唐津市の文化財』  
唐津市教育委員会

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)